



東海テレビこの1年の取り組み 2019

ごあいさつ

本報告は、放送倫理意識の向上、岩手県をはじめとした被災地支援、放送を通じた地域貢献など、2018年7月からの1年間を中心に、東海テレビが実施した各種取り組みについて、皆さまに報告するため作成いたしました。

昭和33年（1958年）に誕生した東海テレビは昨年、おかげをもちまして開局60年を迎えることができました。期間中、57の自社番組を制作・放送し、14のイベントを開催することができました。これもひとえに視聴者の皆さまはじめ、多くの方々のご支援の賜物です。改めて御礼申し上げます。

今年5月1日、令和という新しい時代を迎えました。一方、時代が変わっても、私たち東海テレビにとって決して忘れてはならないことがあります。平成23年（2011年）8月4日の「びーかん問題」です。当時の反省を風化させることのないよう、この1年も放送倫理を考える全社集会や放送人研修会を開催しました。こうした行事をきっかけに、関係者一人ひとりが日々放送倫理を意識することで、会社全体に倫理意識が浸透・醸成するよう努めています。

このほか、日ごろの仕事に潜在しているヒヤリ・ハット事例などを洗い出す業務リスク調査も行い、抽出したリスクを全社横断的に共有しました。未然に事故を防ぎ、有事の際にも柔軟に対応できる体制を構築してまいります。また、働き方・仕事改革といった課題についても、実効性ある活動を継続してまいります。

岩手県をはじめとする東北支援も大事な取り組みの一つです。「びーかん問題」以降、番組を通じた観光PRやイベント、募金活動などを通じ、微力ながら復興の一助を担ってまいりました。このたび、社長という重責を担うにあたっては、これまでと変わることなく被災地支援の意志を継承し、今後も真摯に向き合ってまいります。

テレビをめぐる環境は日々厳しさを増しています。スマート・フォンは生活の一部となり、ネットメディアが台頭していく中、社会にはさまざまな情報が氾濫し、安心、信頼できる情報が一層求められています。東海テレビは放送の公共性、公益性を自覚するとともに、正確かつ有益な情報をより早く発信し、ローカル局として地元根差した活動を継続してまいります。そして、ネットでの動画配信やデータの利活用、4K・8Kの高画質映像の制作研究などにも取り組み、視聴スタイルの変化に応じた、より魅力あるテレビのあり方を形にする挑戦を続けてまいります。

これからも“愛され、信頼される地域最良のテレビ局”を目指し、たゆまぬ努力を重ねてまいります。

視聴者をはじめ関係者の皆さまにおかれましては、今後とも東海テレビの活動に対し、一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



東海テレビ放送株式会社
代表取締役社長

小島 浩資

〈ビジョン〉愛され、信頼される地域最良のテレビ局

〈基本理念〉

1. 放送の持つ公共性、公益性を深く自覚し、社会的使命感と高い倫理観を持って職務を遂行する。
1. ジャーナリズムを堅持し、表現の自由を守り、正確で迅速な報道を通じて視聴者の知る権利にこたえる。
1. 「ふるさとのテレビ」として地域密着を最優先に、良質な番組制作やイベント・事業を通じて、市民生活に役立つ情報と健全な娯楽を提供する。
1. ライフラインとしての使命を自覚し、地域の安全・安心の確保に努める。
1. 放送局として自主・自立を守るため経営の安定を図る。

〈基本方針〉

1. 安全な制作体制のもと、自社制作番組のさらなる充実を図り、視聴率の強化に努める。
1. コンプライアンスの推進と放送倫理教育を徹底し、プロフェッショナルとしてふさわしい放送人の育成を進める。
1. 働き方の見直しなど、健全で健康な労働環境の実現に取り組む。
1. 東海テレビ、グループ会社、協力会社とのコミュニケーションを密にし、活力ある職場作りに努める。
1. 集中と選択を推し進め、チャレンジ精神を大切に新規事業の創出などに取り組む。
1. 4K、8Kなど新技術に適切に対応するとともに放送とインターネットの新たな関係を構築する。
1. 災害時の放送事業継続のため、引き続き設備等の強化を図る。
1. 震災被災地への支援を継続する。

目次 (contents)

P1. ごあいさつ	P10. 放送を通じた地域貢献
P2. ビジョン・基本理念・基本方針	P14. その他地域貢献
P3. 開局 60 周年の取り組み	P18. 視聴者の皆さまとのつながりを大事にします
P5. 放送倫理の向上・醸成への取り組み	P20. 第三者意見Ⅱ
P7. 岩手県をはじめとした被災地支援の取り組み	P21. この1年の取り組み
P9. 第三者意見Ⅰ	P22. おわりに

開局60周年の取り組み

東海テレビが産声を上げたのは1958年（昭和33年）12月25日。最初の番組として開局式典の実況中継を放送して以来、地域の皆さまに支えていただきました。そして2018年、東海テレビは開局60年を迎えることができました。ここでは60周年の取り組みについてご報告します。

57本の番組を制作・放送

60周年期間中、合計57本の関連番組を制作・放送しました。放送に当たっては、「ふるさとイチバン! 東海テレビ」のキャッチフレーズのもと、新企画に加え、レギュラー番組のスペシャル版を中心に企画選定を行いました。番組はドラマ、バラエティ、ドキュメンタリーと多岐にわたり、充実のラインナップとなりました。

ドラマは、2018年12月にスペシャルドラマ「大誘拐2018」を全国ネットで放送、同じく12月にはドキュメンタリードラマ「Home～闇サイト事件・娘の贈りもの～」、そして、正月にはエリアドラマ「ただいま大須商店街」の計3本を制作・放送しました。「大誘拐2018」は、50年以上続いた「昼ドラ」から「オトナの土ドラ」に引き継がれたドラマ制作のDNAを存分に発揮した痛快エンターテインメントドラマ、「Home」は、2007年8月に発生した“名古屋闇サイト殺人事件”を継続取材してきたスタッフが、“ドキュメンタリーだけでは表現できないことを伝えたい”という強い思いから、母と娘、殺人犯の人生をドキュメンタリードラマという形で表現しました。「ただいま大須商店街」は、大須を舞台に繰り広げられる“ふるさと”をキーワードに紡ぐ物語です。東海テレビとしては初めて4Kで制作しました。

バラエティではこの地域で生まれた偉人を取り上げた「地元で発見! こんなところにスゴイ人銅像スター調査隊!」など、新しい企画も生まれ、ドキュメンタリーでは、「私のドキュメンタリー10の旅」と題し、過去制作したドキュメンタリー映画を地上波で放送、「さよならテレビ」、「岩瀬の13球」など話題作も制作・放送しました。

このほか、開局50周年イベントの際に集めた“10年後の自分や家族へ宛てたメッセージ”を題材とした「未来郵便 10年後のあなたへ」など、周年らしい番組も数多く制作し、改めて“この地域の皆さまに愛され信頼されるテレビ局”を目指していくという思いを強くする機会となりました。

60周年を彩ったイベント

昨年は開局60周年記念事業として様々なジャンルの大型イベントを行ってまいりました。夏に松坂屋美術館で開催した「アートアクアリウム展～名古屋・金魚の雅～」、また秋から今年1月にかけて上演した世界的エンターテインメント集団シルク・ドゥ・ソレイユによる「ダイハツキュリオス」は連日たいへん多くのお客様にご来場いただきました。

また日本ガイシホールでの「日清食品ドリームテニス2018」では日本が誇る世界トップクラスプレーヤー・錦織圭選手、大坂なおみ選手らを迎え、まさに夢の競演が実現、満員の観客で盛り上がりました。ゴルフでも8年ぶりにスペシャルマッチ「決戦! 2018」を開催。石川遼選手に加え時松隆光選手、星野陸也選手ら次世代を担う実力派の選手が揃い、後日特別番組としても放送されました。

他にも毎年恒例の「愛知県市町村対抗駅伝競走大会」や「大名古屋らくご祭」に加え、「熱田神宮コンサート」は天皇陛下御即位30年の奉祝記念として熱田神宮で初となる野外コンサートを開催しました。今後も地域の皆さまに喜んでいただけるイベントを積極的に企画、開催してまいります。



Home
～闇サイト事件・娘の贈りもの～



ただいま大須商店街



アートアクアリウム展
～名古屋・金魚の雅～



熱田神宮コンサート

60周年記念番組・催事一覧

【番組】

1. The世界力2	2017/12/30
2. お正月だよ！ぐっさん家！名古屋にさんまさんがやって来ちゃったよSP	2018/01/01
3. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「人生フルーツ」	2018/01/02
4. 壮だったのか！たけい荘Z ももクロ&ドアラが応援！次世代女子アスリートSP	2018/01/02
5. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「神宮希林わたしの神様」	2018/01/03
6. 勘九郎・七之助の2018年極め付け 座・中村屋 ～酒と涙と笑いの宴～	2018/01/04
7. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「ヤクザと憲法」	2018/01/06
8. 藤井聡太15才	2018/01/07
9. オトナの土ドラ 「家族の旅路 家族を殺された男と殺した男」	2018/02/03
10. 東京のイとこみんな教えて！ ロンポー淳のスマホ旅	2018/02/04
11. 名古屋ウィメンズマラソン2018	2018/03/11
12. 名古屋ウィメンズマラソン2018 ～女性ランナー22000人 すべてのゴールを讃えましょう～	2018/03/11
13. 池上彰×ナゴヤ	2018/03/30
14. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「約束 名張毒ぶどう酒事件死刑囚の生涯」	2018/03/31
15. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「ホームレス理事長 退学球児再生計画」	2018/04/07
16. ナゴヤにたけしがやって来た！	2018/04/27
17. ナゴヤにたけしがやって来た！	2018/05/04
18. ゲンギな国に学べ！世界の健康法	2018/05/13
19. 地元で発見！こんな所にスゴイ人銅像スター調査隊！	2018/05/25
20. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「青空どろぼう」	2018/06/16
21. 幸せはリンクの中に ～浅田真央人生の第2章～	2018/06/17
22. 帰ってきた西川きよしのご縁です！SP 日間賀島・篠島で きよし&ヘレンの金婚式SP	2018/06/22
23. みんなで学んで楽しくお参り！おてらツアーズ	2018/07/27
24. すくすくぼん！SP・世界遺産・屋久島海と森の大自然旅	2018/08/18
25. スタイルプラス・ザ・ゴールデン 仕事人の味バスツアー！ ～うまいモノにはワケがある～	2018/08/24
26. きよならテレビ	2018/09/02
27. 朝日インテック presents ドライビング女王コンテスト	2018/09/16
28. ブラ迷相談部スペシャル！	2018/09/28
29. ゴールデンだよ！豪華ゲストがビーチハウスにやってきたSP	2018/10/26
30. ふるさとイッチー祭 スイッチ！SP	2018/10/27
31. 未来郵便10年後のあなたへ	2018/10/28
32. ふるさとイッチー祭 SKE48×BOYS AND MEN Super Live supported by エディオン	2018/11/18
33. 出張！出川保育園	2018/11/23
34. 東海理化スポーツスペシャル 愛知駅伝2018	2018/12/01
35. ドリームテニス2018 ～錦織圭・大坂なおみ 名古屋で夢の競演～	2018/12/01
36. 正しくお参り！バッチリ開運！ やしろツアーズ5	2018/12/02
37. スペシャルドラマ 大誘拐2018	2018/12/14
38. ドキュメンタリードラマ Home ～闇サイト事件・娘の贈りもの～	2018/12/25
39. The世界力3	2018/12/29
40. ミックグループスペシャル 決戦！2018 ～石川遼・稲森佑貴vs時松隆光・星野陸也～	2018/12/30
41. お正月だよ！ぐっさん家 東海3県 ぐるっと！ふるさと大満喫 SP	2019/01/01
42. エリアドラマ ただいま 大須商店街	2019/01/02
43. 勘九郎・七之助の極め付け！座・中村屋2	2019/01/04
44. 壮だったのか！たけい荘ゴールデン	2019/01/11
45. コツコツ人生館	2019/02/03

46. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「長良川下根性」	2019/02/09
47. 地元で発見！こんな所にスゴイ人銅像スター調査隊！	2019/02/22
48. 岩瀬の13球	2019/03/02
49. 東海のイとこみんな教えて！ロンポー淳のスマホ旅	2019/03/08
50. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「ふたりの死刑囚」	2019/03/09
51. 名古屋ウィメンズマラソン2019	2019/03/10
52. 武井壮が全力応援！そうだったのか？！ 名古屋ウィメンズマラソン2019	2019/03/10
53. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「平成ジレンマ」	2019/03/16
54. しぶとく生き残る〇〇とは！？ 消えそうで消えない世界	2019/03/24
55. サイコロ電鉄～各駅！名物発見の旅！～	2019/03/30
56. 私のドキュメンタリー10の旅 映画「死刑弁護人」	2019/03/30
57. 未来郵便 10年後のあなたへ	2019/03/31

【催事】

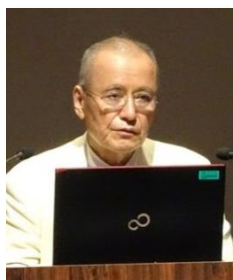
1. 第21回スーパークラシックコンサート ニューヨークフィルハーモニック with 五嶋龍	2018/03/15
2. モネ それからの100年	2018/04/25～07/01
3. 第22回スーパークラシックコンサートシリーズ2018	2018/03～2019/01
4. アートアクアリウム展 ～名古屋・金魚の雅～	2018/07/21～09/16
5. ミックグループスペシャル 決戦！2018	2018/10/01
6. ふるさとイッチー祭	2018/10/27～28
7. ダイハツキュリオス 名古屋公演	2018/11/22～2019/01/27
8. 東日本大震災復興チャリティ 日清食品 ドリームテニス NAGOYA2018	2018/11/25
9. 第13回愛知県市町村対抗駅伝大会	2018/12/01
10. テレビ・映像 最新技術展 in 名古屋2018	2018/12/11～12
11. 宝塚歌劇 花組全国ツアー 刈谷公演	2018/12/11～13
12. 大名古屋らくご祭2018 Presented by キクチメガネ	2018/12/20～23
13. Gahna Presents 松任谷由実 THE TIME MACHINE Traversing through 45 years (追加公演)	2018/12/20
14. 天皇陛下御即位30周年奉祝記念 熱田神宮コンサート	2019/03/23～24

放送倫理の向上・醸成への取り組み

2011年8月の「ぴーかん問題」を教訓に、社内コンプライアンス体制の充実を図るさまざまな活動を実施しています。放送を巡る環境も時々刻々変化しています。これに対応するため、定期的に集会や研修会を開き、その活動を第三者組織にチェックしていただいています。ここでは放送倫理向上・醸成に関する取り組みについてご報告します。

放送倫理を考える全社集会

2018年8月3日（金）



BPO放送倫理検証委員会
前委員長 川端 和治氏

「放送法では放送に携わる者は健全な民主主義の発達を実現すべき職責があると宣言されているわけです…これは放送人のあり方を訴える法律家としての視点です。2018年度の放送倫理を考える全社集会は、放送倫理・番組向上機構、放送倫理検証委員会の前委員長・川端和治弁護士に「放送倫理の根源を考える」

というテーマで講演していただきました。権力によって表現の自由が厳しい制約を受けていた戦前戦中の経緯を踏まえ誕生した「放送法」の成り立ちや、「ぴーかん問題」をきっかけとして、全放送局に「放送の使命」をあらためて振り返る機会を設けるよう求めた委員長時代の経験などを語っていただきました。最後に、ちょっとしたミスでこれまでの様々な放送界での功績を打ち消すようなことのないよう喚起するとともに、力強いエールをいただきました。

今回の全社集会では報道部、制作部などから3人が壇上に上がりました。「何が撮れたかではなく、何を伝えるか、何が伝わったかが大きな課題」と訴えたドキュメンタリー制作経験者。現代の取材、リサーチで必要不可欠なインターネット情報や視聴者投稿の真贋を見極めるニュースデスク、「ぴーかん問題」以降、ヒヤリ・ハットを共有して、ミスをなくし誠実な番組作りに努める制作者。今、直面している課題や「伝える事」に対する思いなど、それぞれが切実に感じることを参加者に訴えかけました。

今回の全社集会で、放送に携わる責任をあらためて問い直しました。当たり前のことですが、なぜ取材をするのか、なぜ表現するのか、テレビの強みは何か…。歴史あるメディアとして、誇りをもって業務に携わることが大事だということ、振り返る機会となりました。

2018年度下期放送人研修会

2019年3月18日（月）

2018年度下期放送人研修会では、『憲法改正』テレビメディアの役割 国民投票における報道番組及びCMの役割と規制」というテーマで、桐蔭法科大学院の福井康佐教授に講師としてお越しいただきました。福井教授は参議院憲法調査会の客員調査員をお務めになり、2018年9月のマスコミ倫理懇談会全国大会でも新聞・テレビの関係者に講義をされました。



桐蔭法科大学院
教授 福井 康佐氏

研修会でははじめに国民投票の制度の流れについて説明がありました。一方、日本ではこれまで国民投票が行われた実績がないことを踏まえ、他国の国民投票の実態についても紹介がありました。

続いて、国民投票が実施されることになった場合、マスコミとして、何をすればよいか解説がありました。とりわけ報道番組では情報不足を解消し、憲法が改正された場合とされなかった場合、それぞれどのような事が起きるのかを想定しながら公平な情報提供が必要だ、と訴えました。

一方でCMについては、国民投票への参加機運を盛り上げ、憲法改正案についての情報をわかりやすく伝えるような内容にするべき、との考えを示しました。そのためには、改憲・護憲双方にとって公平で、“ファクトチェック”にも努めるなど情報の質を確保することや、憲法に対する主張の出どころを見極めることが大事であることを強調していました。

研修会終了後の参加者アンケートでは、「国民投票がまだ身近なものとして考えられない」とする人がいる一方で、「いつ憲法改正国民投票の発議がなされ、いつ国民投票運動の対応をしてもいいように備えるべき」といった意識の高まりも感じられました。

コンプライアンス責任者会議

東海テレビの全部署のライン部長は「コンプライアンス責任者」として、各部署の業務を取り仕切るだけでなく、コンプライアンスや放送倫理に関する管理・監督の責務も担っています。コンプライアンス責任者会議は3ヶ月に1回、全ての部署の責任者とグループ会社の担当者が出席しています。各部署で発生したトラブル事案から小さなヒヤリ・ハット事例も取り上げ、自部署の案件を他部署の参考事例にしてもらい、他部署の案件を他人事と思わず、自分たちのことと考え、対策を検討してもらい機会としています。このように事例を各部署横断的に共有することで、未然に事故を防ぎ有事の際にも迅速に対応できる風土づくりを目指しています。



3ヶ月に1回開催のコンプライアンス責任者会議

コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は社長を委員長に、役員・局長・グループ会社のコンプライアンス担当役員を構成メンバーとし、半年に1回開いています。コンプライアンス責任者会議の結果や、会社の運営に必要な法令上の課題について協議しています。2018年9月の委員会では、外部制作会社との取り引きで重要となる下請法を、また2019年3月には、時間外労働や有給休暇取得に関わる働き方改革関連法などを議題として取り上げました。そして、それぞれの留意点について顧問弁護士から解説をしてもらい、意識向上に努めるとともに、職制を通じ情報共有を図りました。



経営層から上級管理職で構成するコンプライアンス委員会

オンブズ東海

2012年に発足したオンブズ東海は、法律で義務付けられた番組審議会の他に、東海テレビが独自で運営している第三者組織です。現在、マスコミ・法律・消費者経済の専門家3名に委員をお願いしています。オンブズ東海は自社制作番組の制作過程やイベントの運営プロセス等について、それぞれの専門の視点から、そして視聴者の立場からも確認していただいています。委員会は3カ月に1度開催され、委員会で出された意見は社内にフィードバックし、今後の業務に役立てています。またHPや視聴者対応番組「メッセージ1」を通じ、視聴者の皆さまにも活動内容を報告しています。

【オンブズ東海委員の皆さん】



坂井克彦委員長
㈱中日新聞社相談役



橋本修三委員
弁護士



東 珠実委員
榊山女学園大学
現代マネジメント学部
教授

その他コンプライアンス強化に向けた取り組み

この1年では、上記取り組みのほか、「業務リスク調査」を実施しました。「SNS」「働き方改革」「異常気象」「ハラスメント」など、放送をめぐる新たに把握すべきリスクを全部署で抽出、今まで以上に不測の事態に柔軟に対応できる企業づくりに努めました。と同時に、社会に役立つ正確な情報を迅速に伝えるという、放送局としての原点に立ち返り、公共性と高い放送倫理を意識した活動をつねに考えるようにしています。

岩手県をはじめとした被災地支援の取り組み

「ぴーかん問題」は、この地方の視聴者の皆さまにとどまらず、岩手県をはじめ東日本大震災の被災者の皆さまにも多大なご迷惑をお掛けすることになりました。東海テレビでは現在、番組の放送などを通じ、東北地方のほか、震災被災地の支援に取り組んでいます。



岩手の「金」と「銀」

経営戦略室 野瀬 義仁

金色の風。銀河のしずく。
これが何だかわかりますか。

このふたつは岩手県が誇る「金銀米」。約10年をかけて開発された岩手のオリジナル水稻品種です。「銀河のしずく」が2016年秋、「金色の風」が2017年秋のデビューですので、まだ日が浅く、この地方での知名度はそれほど高いとはいえませんが、「ひとめぼれ」と並ぶ岩手のブランド米です。

毎年夏、社長に同行して岩手県を訪れる頃は、あたり一面に青々とした水田の風景が広がっています。そして毎回、JAでも、岩手県庁でもその年の稲の生育状況が話題となります。昨年もその日の稲の出穂状況について、わが子のことを話すかのように説明されました。岩手の関係者にとってそれくらい米は日常に根ざしているものなのです。東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故から8年以上になります。それでも、いまだ岩手県やJAのホームページには米の放射性物質の検査結果が載せられています。岩手の米から基準値を越す放射能が検出されたことはないにもかかわらず、いったん広がってしまうと拭うことが難しい風評被害の根深さが垣間見えます。

訪問するたびに被災地の復興は進み、直接目に見える震災の傷跡はどんどん少なくなっています。その一方で、消費者に刷り込まれた風評が完全に払しょくされるにはまだまだ時間がかかります。食べることも支援につながります。店頭で見つけたら是非買って味わってみてください。岩手の金と銀の米を。



たんぽぽの二人と共に



春の東北・福島旅

制作部 安井 一人

東日本大震災から8年。「スイッチ!」では、3月11日に「春の東北・福島旅」と題し、福島の中でも被害が大きかった沿岸部のいわき市を「たんぽぽ」の2人がめぐる旅を特集で放送しました。

「たんぽぽ」の白鳥久美子さんは、福島県郡山市出身。白鳥さんの被災地への思いは強く、「東北・みやぎ復興マラソン」に参加しているほか、震災後も福島を度々訪れ、地元の人たちとの交流を続けています。そんな白鳥さんだからこそ案内できる「ふるさと」の良さがあると考え、定番の観光スポットを中心に、福島・いわきの「いま」を紹介することにしました。実際に取材してみると、県内有数の漁港・小名浜港は、いまだ本格的な操業再開のメドが立っていないなど、震災の影響が現在進行形であることを知った反面、バスツアーなどで県外からの観光客も訪れていて、客足は戻りつつあることもわかりました。また、特に印象に残ったのは、前向きに生活している、いわき市民の皆さんが見せた明るさです。そこには、訪れる人々を精一杯もてなし、一緒に笑顔になってほしいという思いが詰まっているようにも感じられました。このように、被災地の「いま」を定期的に東海地方の皆さんに紹介していくことが、微力であっても復興支援につながることを祈ります。



イベントでも被災地支援
イチイチ祭 復興支援ブース
営業推進部 古田 直樹

2018年10月27日(土)・28日(日)開催
ふるさとイチイチ祭には日程の関係で参加できなかった宮城県を除く岩手・福島・熊本の3県がエンゼル広場の復興支援ブースを出展、来場者に地元の特産品販売や観光PRをしました。

会場全体の賑わいととも各県のブースにも多くの方が訪れ、福島県のご担当者からは「客足も良く特産品の業者さんも喜んでくれました」とお礼の言葉をいただきました。ニュース、情報番組での情報発信だけでなく、自社イベントにブースを出展していただくことも私たちの被災地復興支援です。2019年の感謝祭でも同様に取り組んでいきたいと思っています。

イチイチ祭 復興支援ブース



岩手県産「ひとめぼれ」新米の社内販売実績

- 2018年10月、11月に岩手県産「ひとめぼれ」新米5kg入り3,300円を257袋、計1,285kgを社内販売。
- 2018年4月～10月までに社内食堂で、岩手県産「ひとめぼれ」を計3,290kg消費。



今年で設立 40 年



東海テレビ福祉文化事業団
愛の鈴

「社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団」は、1979年に設立以来40年間、東海地方の障がい者や高齢者、子どもたちの福祉の向上に貢献しています。年間を通した「愛の鈴 しゃあわせキャンペーン」や「愛の鈴年末助け合い運動」の募金活動を実施。また、東海3県の事業所に対する軽自動車「愛の鈴号」の寄贈



や、身体のハンディを克服し社会的に自立健闘している地域在住の方々を顕彰する「東海テレビひまわり賞」を設けています。

一方、災害援護事業として2011年の東日本大震災発災直後から義援金を募り、これまでに合計約1億3千万円を内閣府窓口などに寄託しております。今後も地域福祉の充実をめざし、被災地支援のための義援金受付を行っていきます。

この1年にお伝えした被災地支援の主な番組

ニュースOne One

- 7月12日「岩手 食の懇談会」
- 7月13日「大震災の教訓を学ぶ出前授業」
- 11月6日「東日本大震災の記録を伝える写真展」
- 11月6日「タカシマヤで大東北展」
- 11月26日「最後のふるさとフェア」
- 11月28日「被災犬マリが福島へ里帰り」
- 12月1日「二見浦で防災訓練」(仙台・河北新報社が実施)
- 12月15日「ひまわりの種を福島へ 贈呈式」
- 12月24日「園児達がクリスマスチャリティコンサート」
- 3月8日「大谷主義 被災地の教育現場は」(福島県)
- 3月11日「東日本大震災8年 東海地方は？」

スイッチ!



- 11月7日「大東北展」中継
- 11月27日「冬の全国ふるさとフェア」
- 1月23日「宮城県の観光と物産展」
- 3月11日「春の東北・福島旅」

第三者意見 I

東海テレビオンズ東海の委員と内部通報窓口「ヘルプライン東海」の外部相談窓口をお務めいただいている弁護士の橋本修三先生に、東海テレビの取り組みについてご意見をいただきました。

2011年に東海テレビ内に設置された再生委員会は、放送倫理の徹底と放送人教育の改善、職場コミュニケーションの活性化、コンプライアンス部局の充実などを求める答申を行った。これを受けて、東海テレビは、直ちに具体的な改革に着手し、これらの取り組みを精力的かつ継続的に行ってきた。その改革は現在もなお続いている。

不適切放送から既に8年が経過したが、東海テレビの改革に向けた取り組みはたゆむことなく実践され、着実に機能していると感じられる。また、答申の総括的な位置づけとして、毎年7月を「放送倫理を考える月間」として各部署で放送倫理を見つめ直すとともに、8月4日には「放送倫理を考える日」として全社集会を開催している。このような取り組みは、放送倫理を守る放送人に課せられた使命を忘れない東海テレビの強い決意が感じられるものであり、高い評価に値する。

ミスをなくすことはもちろん重要なことである。しかし、人は誰しも過ちを犯すものであり、日々の仕事に忙殺され常に緊張を強いられている放送人にとって、あらゆるミスを根絶することはおよそ不可能に近い。それ以上に、何らかのミスを起こした際、過ちを改め、迅速かつ適切な対処をすることこそが重要である。

オンズ東海は、東海テレビから距離を置いた組織であり、第三者的な目線で、俯瞰的に見ることが求められている。私は、発足当初から委員を務め、その中でミスを起こした事案についての報告を受け、内容によっては厳しい意見を述べたこともある。その場合でも、東海テレビでは速やかな対応がなされるとともに、結果についての報告を受けてきた。このような再生委員会の答申の趣旨を真摯に受け止め実践している東海テレビの姿勢には敬服している。

当事務所は、「ヘルプライン東海」の外部相談窓口となっている。東海テレビにおける内部通報制度の利用は、それほど多くはないが、確実に浸透し、透明性が確保されつつあると実感している。内部通報制度の利用件数の多寡は、問題が多い会社であるということを示す指標ではなく、社内のオープン度の高さや健全性を示す指標と理解されるべきである。内部通報が一切利用されないということは、会社に問題がなく健全であることを意味するのではなく、むしろ逆であり、会社が閉鎖的であって風通しが良くないということを示している。しかし、内部通報制度を利用することによって情報が漏れるのではないか、自分が不利になるのではないかと不安を持たれる方が多い。過去に社内で行われたアンケートにおいても、そういった声が見られた。現実には、勇気を出して通報したにもかかわらず、報復的措置が行われている企業に関する報道に接することがあることから、声を上げられない人は東海テレビでも必ずいると思う。そのような方々の不安をできるだけ除去して相談や通報を可能にしたのが、当事務所の外部相談窓口である。弁護士は、職業上依頼者の秘密を取り扱っており匿名性を確保しやすいし、独立性のある立場で通報を扱うことが可能であってそれなりの信頼を得ていると思う。問題が大きくなる前に躊躇なく相談していただきたい。



橋本 修三（はしもと しゅうぞう）氏

名古屋市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、1987年弁護士登録（愛知県弁護士会）。1992年橋本法律事務所を開設し、現在に至る。2012年1月よりオンズ東海委員。

放送を通じた地域貢献

昨年開局60年を迎えた東海テレビでは、それを記念して多くの番組を制作しました。いずれも地域に根差し、地元の魅力を発信したもののばかりです。ここでは、質の良い番組を作るためにどんな点に気を付けたのかといった制作秘話などについて、制作・報道・スポーツの各番組の担当者に報告してもらいました。



「一緒に暮らそ！」リニューアルに込めた思い



制作部 伊藤 芳人

7年目を迎えた「スイッチ！」は、4月に番組内容をリニューアル。キャッチフレーズは、「一緒に暮らそ！」。これまでの旅やグルメ情報に加え、節約術や収納、お得なサービスや健康ネタなど、生活にまつわる様々な情報を取り上げています。スタジオセットは、これまでの喫茶店から、家や生活をイメージしたものにリニューアル。MCも、子育て真っ最中の藤本晶子アナ、そして新婚の速水里彩アナを起用しました。

キャッチフレーズの「一緒に暮らそ！」には、2つの思いが込められています。

ひとつは、番組が視聴者と“一緒に”暮らしの情報を学び成長していきたいという思い。

もうひとつは、家族が“一緒に”楽しめる番組にしていきたいという思いです。かつて、テレビは家族で見るものでした。しかし、多チャンネル化で番組が細分化されたことや、スマホ視聴が日常となってきた今、テレビは、個人で見るものとなってきました。“暮らし”という家族共通のテーマで、家族が一緒に楽しめる…テレビを中心に家族の会話が生まれる…そんな番組にしていきたいと思います。



新MCの藤本晶子アナウンサーと速水里彩アナウンサー



東海テレビ開局60周年記念

地元で発見！こんな所にスゴイ人

銅像スター調査隊！

制作部 稲吉 豊

2019年2月22日（金）放送
普段、何気なく通り過ぎる“街の銅像”。

しかし、その人の偉業や生涯を調べると、意外な発見がたくさんあります。そこで、東海地方に佇む銅像をキッカケに「一体、この人は何をしたんだろう…？」という「謎」を調査し解き明かすのがこの番組。



沢村栄治像

番組では、三重県伊勢市に建つ「沢村栄治」と、名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムに建つ、愛知一中のマラソン校長「日比野寛」の銅像を紹介しました。

プロ野球で「沢村賞」の名は聞いた事があったとしても、彼が地元出身である事、戦時中3度も従軍し、投手としての再起を目指しながら、27歳で無念の死を遂げた事はあまり知られていません。また、日比野校長が日本の教育現場に初めてマラソンを導入した人物であり、“いだてん”金栗四三と共に、日本初の駅伝でアンカーを競った事も知られていません。

銅像となった偉人の取材を重ねると、果てしない苦勞を乗り越えていたり、現代では考えられない破天荒な生き方をしているなど、多くの発見と学びがありました。今後も、地元の様々な事象を切り口に、地元が誇らしく思える番組を制作していきたいと思います。



日比野寛像



司会の加藤浩次さんも、東海地方の銅像に興味津々！



ドラゴンズの勝利は地域の力の源



スポーツ部 山本 貴太

「今年のドラゴンズは楽しみだ」そんな声をよく耳にしたのは、今年に入ってからのこと。去年まで、6年連続Bクラスと低迷が続く地元・中日ドラゴンズでしたが、昨



2018年ドラゴンズ新入団選手発表

年秋、ドラゴンズ出身の与田剛監督が誕生、ドラフトでは岐阜県出身で高校野球界のスーパーstar根尾昂選手を獲得など明るい話題が続き、ファンの皆さんは「楽しみ」という言葉をよく口にするようになりました。シーズンが始まってからも、去年までとは顔ぶれが変わった選手たちがナゴヤドームで躍動、開幕前は低かった下馬評を覆し、粘り強い戦いを続けています。東海テレビでは、そんなドラゴンズの試合を生中継する「DRAGONS LIVE」と、30年以上続くドラゴンズ応援番組「ドラHOT+」を放送しています。



2018年ドラフト1位 根尾昂選手

ドラゴンズが勝てば地域は盛り上がり、ドラゴンズが勝てば番組も盛り上がります。まさに、それは、地域の人々の力の源と言えるでしょう。今年こそ「昇竜復活」を！東海テレビでは、これからも、旬なドラゴンズ的话题をふんだんに取り上げ、地元局だからこそできる愛のある番組作り、そして、ファンの皆さんと一緒に盛り上げられるような番組作りを目指していきます。



与田剛監督とドラHOT+出演の皆さん



東京オリンピックを目指す 「ふるさとのアスリート」

スポーツ部 松鷹 裕介

2020年の東京オリンピックまで残すところ1年あまりとなりました。高橋尚子さん、野口みずきさん、吉田沙保里さん、などなど……。これまでも東海地方から数多くのオリンピックメダリストが生まれてきました。そして今もその先輩たちに続こうと東京オリンピックを目指し奮闘するアスリートたちがこの地方にはたくさんいます。あと残り1年、「ふるさとイチバン！」を掲げる東海テレビでも、そんな「ふるさとのアスリート」の活躍をニュースの中でお届けする機会をより増やしていこうと取材活動を強化しています。

練習でマメだらけになった手のひらを見せてくれたボート選手。小柄な体格をカバーしようと20キロの重りをぶら下げて懸垂する水泳選手。難聴というハンディを競技に集中するための自らの武器だと言い切る円盤投げ選手。お伝えしたいのは、アスリートたちの日々の努力や苦難に立ち向かう心の強さなど“スゴさ”と“オリンピックへの想い”です。

放送を通じて地域の視聴者の皆様に「ふるさとのアスリート」をより身近に感じていただき、東京オリンピックに向けて一体となって応援していくことで地域全体を盛り上げていければと思っています。



おもりをつけ筋力トレーニングをする競泳 背泳ぎの小西奈選手



「生活報道」にこだわって2年目

ニュース
One

報道部 藤川 武彦

2018年4月にスタートした「ニュースOne」は2年目を迎えて、さらなる飛躍を目指し、リニューアルしました。番組当初からのテーマである「生活報道」をより強化すべく、「くらしOne」コーナーをより充実させ、暮らしに役立つノウハウのほか、新スポットの情報など、気になる情報をコンパクトにまとめてお伝えしています。また、天気コーナーを大幅に見直し、洗濯情報や紫外線情報など、「おせっかい」なぐらいより暮らしに密着した気象情報を提供するよう目指しています。

一方、もう一つの番組の軸となる「地元密着」では「ふるさとーク」を2年目も継続し、東海3県各地の街の話題、イベント情報など、高井、上山両キャスターが地域の方との生電話でふるさとの声を伝えます。また、新たにスポーツコーナーを設け、地元・中日ドラゴンズや名古屋グランパスの情報のほか、来年の東京オリンピックを見据え、注目の地元ゆかりの選手なども積極的に取り上げています。

また、去年は岐阜県を中心に襲った豪雨や、相次ぐ台風の直撃など多くの自然災害が東海地方を襲いました。今年も台風シーズンを迎え、災害時だけでなく、普段からの防災についての啓発を続けていきます。



上山 真未キャスター

高井 一キャスター



ドキュメンタリードラマ

Home

～闇サイト事件・娘の贈りもの～

報道部 繁澤 かおる

2018年12月25日放送

2007年に起きた「名古屋闇サイト殺人事件」。インターネット上の闇サイトで集まった男3人が見ず知らずの女性を拉致して殺害、山中に遺棄した事件です。事件の悲惨さをはじめ、遺族が男3人の極刑を求めた裁判の行方などに



当時、大きな注目が集まりました。この事件を題材にしたドキュメンタリードラマ「Home ～闇サイト事件・娘の贈りもの～」は、生前の被害者の女性とその母親の物語をドラマで、そして事件後の母親の10年余りをドキュメンタリーで描いています。番組の中で大事にしたのは、母と娘が2人で築きあげた「家庭」であり、娘が母に遺した「お家」であり、今も母が大事にする「場所」である「ホーム」という視点です。加害者の生い立ちも織り交ぜたことで、異なる家族の風景が見えてきます。

脚本、監督、カメラ、編集など、このドキュメンタリードラマを作ったスタッフは、事件発生当時から取材してきた報道の人間です。ドラマ制作は専門外の分野ですが、多くの人にこの事件について考えてもらえるようにと新たな表現に挑みました。自分たちと遠いところで起きた単なる事件としてではなく、番組で描いた家族の物語を通して、身近なテーマとして事件をあらためて捉え直してもらえたらと思っています。



ドキュメンタリードラマ「HOME」より



多様性もテーマに



結婚相手は抽選で

東京制作部 河角 直樹

東海テレビでは2018年10月から11月に、「オトナの土ドラ」16作品目となる「結婚相手は抽選で」を放送しました。「抽選見合い結婚法」施行という架空の設定から、現代の社会問題を浮き彫りにしていく中、ドラマではLGBTなど多様性のあり方もテーマの一つとして取り上げました。

番組を制作するに当たり、LGBTの監修の方には、「結婚相手は抽選で」の台本に多くのチェックを入れていただきました。特に参考になったのは、私たちが気にせずに使っていた言葉へのきめ細かい指摘でした。

例えば「LGBTはデリケートな問題だし」と云う台詞は「LGBTなどセクシュアリティはデリケートに扱う必要があるし」に変更、「昔からの常識がまかり通っている組織」は「昔からの価値観がまかり通っている組織」に改めました。

個々人の生き方の違いは解決すべき“問題”ではありません。また、“常識”の枠に全ての人の考え方が包摂されてきたわけでもないのに、当たり前のように編まれてしまった台詞。何気ない言葉の中に、私たちの密かな固定観念と無関心が含まれていたと気づかされました。

マイノリティをテーマとしてドラマで扱う時に気を配ったのが、描かれた人間像が紋切り型で上っ面にならないようにすることです。その“紋切り”の根源こそ作り手の偏ったものの見方です。監修を受ける上で肝要なのはそれを摘出して正す事だと思います。

そして多様な人間を一個人として普通に肯定的に、そして実在感を持たせることこそが「結婚相手は抽選で」の中で表現したかったことでした。と書いたところで、“普通”とは一体何なのか？偏見は至る所に……。



視聴者の防災力向上のために

地震特番「巨大地震にどう備える」

報道部 松井 大地

2019年3月11日放送

報道機関でもある東海テレビの責務は、放送・報道を通じて視聴者=住民の命をどう守るかということです。そのため様々な取り組みを進めています。

ほぼ毎年1回のペースで放送している地震特番。今年（3月11日）はニュースOneスペシャルとして「巨大地震にどう備える～いまできること…知るべきこと～」をテーマに1時間に渡り放送しました。65歳の高井一キャスト自ら



“帰宅困難者体験”をし、都心に潜む“落とし穴”を紹介。他にも発災時に溢れるSNS上のデマに惑わされないためのAIを使った最新技術を取材するなど、視聴者が今知って防災に役立つ情報を盛り込んだ番組作りに心がけました。



その他地域貢献

放送活動を通じ、皆さまの暮らしに役立つ情報や、娯楽を提供するだけでなく、大規模な自然災害や事件・事故など、有事の際のライフラインとして役割を果たしてまいります。また、ドキュメンタリー映画、大型イベント、動画配信研究など、放送以外の分野でも皆さまのお役に立てるよう日々取り組んでいます。



地域のライフラインとして 各番組で緊急放送訓練を実施

台風や集中豪雨、地震、さらにはミサイル発射の脅威など、私たちの暮らしは、ともしれば大きな災害につながるさまざまなリスクに囲まれています。一方、放送局は災害に関する重要な情報を伝えるライフラインの役割も担っており、そのための訓練を定期的に行っています。

この1年も東海地方で大規模な地震が発生したのを想定し、報道部では緊急特番の訓練を行いました。また、発災時に地方公共団体やライフライン事業者などの情報を地域住民等に伝達する災害情報共有システム（Lアラート）の全国合同訓練に参加しました。さらに、弾道ミサイルが日本の領土・領海に落下・通過する可能性がある場合運用される全国瞬時警報システム（Jアラート）発報を想定した緊急放送の訓練も実施しました。このほか情報、スポーツの各番組でも、生放送中に地震が発生したのを想定し、番組内で時々刻々と変化する震災情報を提供する訓練に取り組みました。東海テレビでは今後も有事の際のライフラインとして、地域の視聴者の皆様にご有益な情報をお届けできるよう訓練を重ねてまいります。

「スイッチ！」放送後
実施した訓練



ライバル局が連携して大災害を報道 「名古屋モデル」始動

2019年5月20日
名古屋4局「名古屋モデル」記者会見

南海トラフ巨大地震など大災害が発生した際、放送を通じて一人でも多くの命を救う目的で、東海テレビなど名古屋の民放4局が連携し、ヘリコプターの共同取材をすることになりました。

具体的には愛知県や三重県の沿岸部に津波警報が発表された際、4局が地域を分担してヘリコプターを運用し、津波の接近や襲来を生放送などで伝えるとともに、その映像素材を共有して活用できるようにします。

大災害時に放送局が局や系列を越えて共同取材を行うのは国内では初めてで、名古屋の民放4局では「名古屋モデル」と名づけ、2019年6月1日から運用できるようにしています。



いざという時の放送継続に備える ケーブルテレビ経由で情報を

東海テレビは、瀬戸デジタルテレビ放送所（愛知県瀬戸市）が機能不全に陥った場合でも、放送を継続していくために（BCP対応）、本社から予備電波を送信する非常用設備を設けています。

一方、東海テレビなど名古屋の民放5局は、瀬戸デジタルテレビが機能不全に陥った場合、予備送信電波による視聴可能世帯の拡大を目的に、(株)コミュニティネットワークセンター及び中部地区ケーブルテレビ19社と「非常時における情報伝達に関する協定」を締結し、4月1日から運用を始めました。

この合意により、(株)コミュニティネットワークセンターが持つ配信ネットワークを経由して、より多くの中部地区ケーブルテレビに予備送信電波の配信が可能となり、予備送信電波の視聴可能世帯を大幅に広げることができるようになりました。



愛されるキャラを目指します マスコットキャラクター“イチー”

宣伝部 芳賀 大記

2018年1月、新たなキャラクターとして誕生した「イチー!」、それ以来、様々な形で地域への訴求に努めてきました。情報番組や広報番組に登場する他、イチー公式サイトや公式SNSも開設。放送だけでなく、ネットやSNS上でもその活躍の場を広げています。CGキャラクターとしてだけでなく、ロケでは着ぐるみやぬいぐるみという形で視聴者の皆さまと触れ合い、親しんでいただいています。

朝の情報番組「スイッチ!」では、毎週中継コーナーで登場。着ぐるみやぬいぐるみが東海3県のあちこちを訪ね、初めは目新しさだけだったのが、最近では「イチー!」と声をかけられることも増えてきました。

2018年7月には、レギュラーミニ番組「ふるさと☆イチー」がスタート。地元でがんばっている人を紹介・応援するこの番組では、イチーは伊良湖の海から郡上の雪山までいろいろな土地を訪ねました(2019年3月で終了)。

また、公式インスタグラムの中では、各番組にご出演いただいたタレントさんや俳優さんがイチーぬいぐるみと撮った写真を紹介するのが恒例に。

これからもイチーは、東海テレビの魅力を伝えるために、そして東海3県を今まで以上に盛り上げるために、さまざまな形で視聴者の皆さんの前にお目見えします!



地上波とは違うコンテンツも提供 ネット動画配信

デジタルコンテンツ部 渡辺 潔

東海テレビではインターネット回線を活用し、放送チャンネルだけでなくインターネットでの情報発信にも努めています。

全国ネットのドラマ「オトナの土ドラ」では、放送を見逃した方々やもう一度見たいという皆さんに対して、ドラマのインターネット配信をTVerやFOD(フジテレビオンデマンド)等のホームページやアプリで展開し、パソコンやスマートフォンなどで見られるよう利便性を高めています。

また、東海テレビのニュースは放送だけでなく、東海テレビ公式サイトや各種ニュース配信サイトで文字情報に動画や静止画も加えて、充実した情報をお伝えしています。

この1年に行われた愛知県知事選挙・三重県知事選挙では、全国ネットのバラエティ番組を放送している時間帯に、開票番組を公式サイトでインターネットライブ配信を行い、関心ある皆さまへ開票速報を展開しました。

ナゴヤウィメンズマラソンでは中継番組を補完すべく、一般ランナーのゴール地点での様子をライブで配信し、一般最終ランナーがフィニッシュするシーンまでお届けしました。

これらの取り組みでは技術的な課題も見えており、その課題の解決を図りながら、今後もインターネット回線を活用し、優良な動画や情報の発信を進めてまいります。災害発生を含め、より多くの方々にリアルに情報を伝えることがテレビ局の責務と考えています。放送だけでなくインターネットを活用した情報伝達についても引き続き研究を重ねていきます。





地方発 全国へ
東海テレビドキュメンタリー映画
報道局 齊藤 潤一



多くの人にドキュメンタリーを見てもらおうと、2011年からテレビで放送したドキュメンタリー番組を再編集して、全国の劇場で公開しています。その活動が認められ、昨年10月には第66回菊池寛賞を受賞しました。

今年2月には11作品目の映画作品となる「眠る村」を公開。東海テレビでは半世紀にわたり名張毒ぶどう酒事件の取材を続け、冤罪の可能性が高いと確信し、ドキュメンタリー番組を制作してきました。今回はこれまでテーマとして避けてきた「村」を描きました。小さな村の懇親会で起きた毒殺事件。犯人は村人に絞られ、警察は村人から事情聴取。奥西が自白すると、村人は皆「奥西が犯人だ」と証言を一斉に変更。そして半世紀にわたり「奥西が犯人だ」と信じ続けてきました。冤罪を疑う東海テレビの取材を村人は嫌い、私たちも被害者である村人を描くことに葛藤しました。しかし奥西元死刑囚が獄中死し、事件が風化されつつあるいま、事件の闇を掘り返すことが、マスメディアの役割であると思い、覚悟を決めて制作したのです。

これまでに、東京、大阪、名古屋を始め全国約20館の劇場で上映され、大きな反響をいただいています。今年もドキュメンタリー映画の公開を継続していきます。



ドキュメンタリー映画「眠る村」より



多くの皆さんと触れ合いました
ふるさとイチバン祭
営業推進部 古田 直樹

2018年10月27日(土)・28日(日)開催
毎年、視聴者や地域の方々に感謝の気持ちを伝えるイベント「東海テレビ感謝祭」。開局60周年の節目となった2018年は新たなキャッチフレーズ「ふるさとイチバン!」を全面に打ち出し「ふるさとイチバン祭」と銘打って開催しました。“ふるさと”“祭り”と言って思い浮かぶのは、和のテイスト=日本のお祭りです。会場ステージには大きな提灯、広場には紅白で飾ったやぐらを設置、スタッフは黄色の法被姿で来場者を迎えました。そして祭りのシンボルとして巨大なイチバンふわふわも登場!子どもたちの遊具にもなりました。ステージ上でのコンテンツも“ふるさと”にちなんだ楽曲・トークなどが多く披露されました。

番組ブースでは東海3県ふるさとの名物料理などに行列ができ、協賛社ブースも賑わいました。

また開局60周年特別企画として「10年後の〇〇へ」と題したブースを設け、来場者の方々152



8名に写真とともに10年後へのメッセージを書いていただきました。そのメッセージなどは大切に保管していて、10年後(2028年)には皆さまにお届けしたいと思っております。2日間でお越しいただいたのは16万6000人もの方々。従業員・スタッフの感謝の気持ちが届けられたのではないかと考えています。2019年の感謝祭も地域の皆さまに楽しんでいただけるよう様々な企画を展開していきます。



「ふるさとイチバン祭」会場



テレビの裏側知ってもらいます！
東海テレビ 社内見学&社外イベント
コンプライアンス推進部 谷口 雄二

東海テレビでは地元の児童・生徒の皆さんを対象に、テレビの役割や魅力を理解してもらう取り組みの一つとして社内見学を実施しています。見学では、生情報番組の観覧やMCとの質疑応答、スタジオセットや照明の解説、さらには美術倉庫のバックヤードツアーなどの様々な見学コースを用意し、テレビの画面には映らない制作現場をリアルに体感していただいています。2018年度は東海三県の27の中学・高校の210名にお越しいただきました。



社内見学の様子

また、学校や地域のリクエストで出張授業にも取り組んでいます。2018年度は大学や更生施設にお邪魔し、話し方講座や新聞音読講座などを実施しています。

この他、10月には読書週間に合わせ、名古屋市教育委員会主催のイベントに協力しました。歌やバイオリン、鍵盤ハーモニカなどの生演奏に合わせ、東海テレビのアナウンサーが絵本を朗読、会場にはたくさんの親子にお越しいただき、音楽と朗読のコラボレーションを楽しんでいただきました。



10月20日 絵本の読み聞かせ会 ナディアパーク



社会貢献活動
新聞音読 1000 回読破
編成局 庄野 俊哉

アナウンサーとしてCSR担当になり、中日新聞・生活面掲載の「くらしの作文・新聞音読」を2015年から始めました。

「しまった！」と思ったのは、2～3か月後。音読する作品としないものが出ては不公平と、「全部読みましょう」と意気込んだものの、新聞休刊日は月に1日程度。会社勤めの私には、盆正月と正直辛い時もありました。自宅でも工夫しながら収録を続け、去年8月スタートから約2年半で1000回読破を迎えることが出来ました。



庄野 俊哉アナウンサー

前日に私のところへ原稿を送り続けて下さる、新聞社のデスクにも心から感謝です。

音読を続けて下さる方も少しずつ増えて、1000回の記事では毎朝タブレットを駆使して音読を実践して下さる90歳の女性に会いに行きました。私の心の支えでもあります。

面と向かったの会話より、メールやラインで用を済ませてしまいがちな昨今、改めて「お腹から声を出して、いつまでも元気に」と願って、微力ながらこの活動を続けていきたいと思えます。

いつまでかわかりませんが1000回を超えた今、夢は大きく！あの「放浪記」で森光子さんが達成した2017回まではと、勝手に思っています。コツコツと・・・



新聞音読の様子

視聴者の皆さまとのつながりを大事にします

視聴者の皆さまからいただくご意見は、より良い番組作りに欠くことのできない貴重なヒントです。この1年では、テレビ離れが進んでいるといわれる若い世代から意見を伺う機会を設けたとともに、地域の皆さんからも多くのご意見を頂戴しました。いただいたご意見はこれからも番組の制作に生かしてまいります。

東海テレビ放送番組審議会

東海テレビ放送番組審議会は、放送法に基づき設置され、番組について客観的な意見をいただく第三者機関として運営されています。東海テレビでは、毎月1回（8月は休会）、開催され、番組の審議のほか、東海テレビの放送に関わる事柄について報告し、多岐に亘る意見をいただいています。

委員は10名で、財界や学术界、法曹界のほか、地域活性化に取り組んでいる方などに委員を委嘱しています。また性別の比率も均等となって、広範で多角的な意見を頂戴できるような委員構成となりました。



東海テレビ放送番組審議会

審議会では、審議番組の意見交換のほか、番組審議会の活性化を目的に、2017年から委員のテレビについての意見発表の場を設けることとしました。「私とテレビと東海テレビ」というタイトルで始まり、現在では「きになるテレビ」として、ほぼ毎月、各委員からテレビの番組内容や取材、テレビメディアを取り巻く環境などについて意見を頂戴します。第三者機関からいただいた客観的な意見は、当事者であるテレビに携わる我々にとって、様々な視点から気づかされることがあります。これからは視野を広くするためさまざまな意見を取り入れていきたいと思ひます。

＜東海テレビ放送番組審議会委員＞2019年7月1日現在

浅田 剛 夫	委員 長	井村屋グループ(株)代表取締役会長
伊藤 彰 彦	委 員	東海旅客鉄道(株)取締役常務執行役員
岡田 さや加	委 員	柳ヶ瀬を楽しいまちにする(株) 代表取締役社長
片岡 明 典	委 員	中部電力(株)代表取締役副社長執行役員
後藤 ひとみ	副委員長	愛知教育大学学長
柴田 浩	委 員	(株)名鉄百貨店代表取締役社長
竹松 千華	委 員	(有)IDF代表取締役
林 寛 子	委 員	(株)中日新聞社取締役
福谷 朋子	委 員	弁護士
山岡 耕 春	委 員	名古屋大学教授

貴重なご意見を番組作りに 視聴者対応窓口

ドラマ・ニュース・情報・バラエティ・スポーツなど、さまざまな番組に対するご意見は『視聴者対応窓口』にいただいています。2018年度に寄せられたメッセージは39,866件でした。番組に対する応援メッセージやご批判はもちろん、全国ネットで放送されている情報番組で展開される議論に対する視聴者意見もたくさんいただいています。情報番組、報道番組の内容について、自らの経験を踏まえ、考えや主張を訴える方、出演者に反対する意見を語る方など、さまざまなメッセージが寄せられます。

視聴者の方々からいただいたご意見、ご要望、ご批判は、番組制作者、編成担当者などにフィードバックしています。主なご意見は、毎月1回、第4日曜日早朝5時15分放送の視聴者対応番組「メッセージ1」で紹介しています。「メッセージ1」は視聴者意見の紹介のほか、第三者機関「番組審議会」の概要などを報告し、東海テレビと視聴者との橋渡しの役割を担っています。

『視聴者対応窓口』では、今後も視聴者の方々のご意見をしっかりと聞き、番組制作に役立てていきたいと思ひます。

番組に対する意見を率直に 社外モニター

東海テレビの社外モニターは毎年度上期と下期に、10名の視聴者の方をお願いしています。1ヵ月4～5本の自社制作番組をご覧いただいています。2018年度は54番組についてさまざまなご意見をいただきました。性別や世代、職業、地域など、立場の違う方からいただく多様なご意見は、テレビ局側にも番組作りのアイデアや客観的な視点をいただける機会になっています。

＜社外モニターを経験した方々のご意見＞

- ・自分がテレビ局に貢献するのだと思っていたが、勉強させられた。新しいことを知る半年だった。
 - ・同じ番組でも、みんな意見が違うのが面白かった。
 - ・自分の視野が広がる半年間だった。
 - ・心に響く番組があった、これからは番組表を見てしっかり選びたい。
- など

みんなのテレビスクール2018

東海テレビでは、小中学生向けメディアリテラシー活動「みんなのテレビスクール2018」を、昨年に引き続き実施しました。

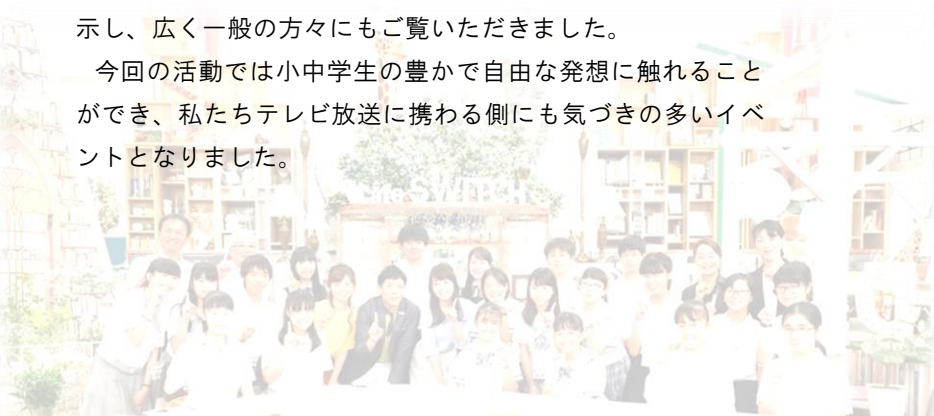
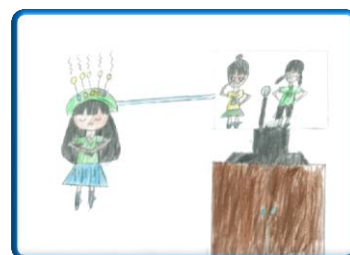
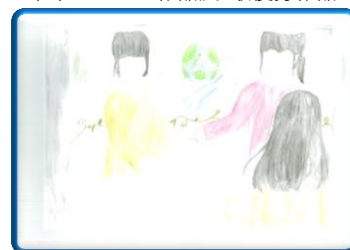
第一弾として夏休みの7月27日（金）と8月6日（月）の2日間、東海テレビで「テレビセミナー」を開催、愛知教育大学附属岡崎中学校、岐阜聖徳学園大学附属中学校、鈴鹿中等教育学校、滝中学校の4校、21名の生徒が参加しました。生放送の情報番組の制作現場の見学をはじめ、編成の仕組みやスポーツ中継の裏側などの講義、カメラ体験やニュース制作の現場を見てもらいました。メインは中学生版の「番組審議会」。東海テレビ制作のバラエティ番組について、本物の番組審議会さながらの活発な意見交換が行われました。中学生の意見を直接聞く機会が決して多くはない中、新鮮な意見が多いことに気づかされました。

さらに今年度は第二弾として、冬休みから春休みにかけて小中学生を対象に「未来のテレビ作品展」を実施しました。子どもたちが考える将来のテレビ像、テレビ番組について絵画と作文で表現してもらおう企画です。いずれの作品も、若い世代のアイデアやテレビに対する思いを直接感じ取れるものばかり。優秀作品は名古屋市博物館など社外のギャラリーで展示し、広く一般の方々にもご覧いただきました。

今回の活動では小中学生の豊かで自由な発想に触れることができ、私たちテレビ放送に携わる側にも気づきの多いイベントとなりました。



未来のテレビ作品展 最優秀作品



「みんなのテレビスクール2018」
番組審議会模擬体験

第三者意見Ⅱ

2011年8月の「ぴーかん問題」後、検証委員会特別委員、再生委員会委員長を務め、現在は東海テレビ社外アドバイザーをお願いしている上智大学文学部新聞学科の音好宏教授に、東海テレビのこの1年の取り組みについてご意見をいただきました。

東海テレビでは、8年前の「ぴーかんテレビ不適切テロップ」事件以来、8月4日を「放送倫理を考える日」として、毎年、この時期に放送倫理を考える全社的な集会を開催するとともに、年に複数回、「放送人研修会」を継続的に開催するなど、放送倫理、コンプライアンスの向上に向けて、全社的な取り組みを行ってきた。あわせて8年前の事件の反省から、第3者の視点で東海テレビの日常的な活動を定期的に検証し、経営に直言するシステムとして設置された「オンブズ東海」も、緊張感をもってその活動を続けられている。

8年前の事件をきっかけに設置されたコンプライアンス推進部を、文字通り推進役にして、このような放送倫理の向上に向けた丁寧な取り組みが行われ続けてきた。それらの活動を継続してきたこと自体が東海テレビの財産であり、東海テレビの活動に関わる全ての人たちの共通した価値意識の醸成に資するものとなっていることは間違いない。

ただ、いま、放送局の現場や、映像コンテンツの制作現場は、ドラスティックな変革が求められている。その際たるものが働き方改革で、昨年の通常国会で、政府から重要法案として提出された働き方関連法案が成立したこともあって、働き方の抜本的な見直しが急務となっている。

これまでの放送現場には、質の良いニュースや番組を送り出すためには、長時間労働や過重労働はあたり前という空気があったことは否めない。そのような空気が、「3K職場」とのイメージを世間に流布したし、また、過酷な労働環境による犠牲者も出ている。加えて、放送現場におけるこれまでの取引慣習や、雇用のあり方についても、実態を検証し、見直すべきとの指摘がされている。総務省では、昨年より「放送コンテンツの適正な製作取引の推進に関する検証・検討会」が開催され、放送コンテンツの製作、取引におけるガイドラインの見直しが進められているが、その議論の場においても、放送現場における労働環境の改善を求める発言が何度となくなされている。

先日NHKは、現在月～土の週6日放送している「朝の連続テレビ小説」を、2020年度より、月～金の週5日の放送に短縮すると発表した。その理由として、長時間労働になりがちな制作現場の負担軽減を上げている。このように、目に見える形で製作の枠組みを変えることが職場の空気を揉みほぐしていくことになるだろう。8年前の事件が発生した要因として、コミュニケーション不足が指摘された。放送現場に働き方改革が求められるなかで、自らの職場、自らの姿を客観視し、そのありようを職場の仲間たちとともに検証し、改良していくことが求められている。



音好宏（おとよしひろ）氏
上智大学文学部新聞学科教授
北海道札幌市生まれ。1990年上智大学大学院博士後期課程満期退学。日本民間放送連盟研究所勤務後、1994年より上智大学専任講師、その後、助教授を経て、2007年より現職。専門はメディア論。2013年より上智大学メディア・ジャーナリズム研究所所長を務める。

この1年の取り組み

東海テレビが2018年7月から2019年6月までに行った、放送倫理やコンプライアンス関連の主な取り組みについて年表にまとめました。

2018年		11月12日(月)	東海テレビ開局60周年記念式典
7月	放送倫理を考える月間	11月15日(木)	第56回ギャラクシー賞上期テレビ部門 奨励賞「さよならテレビ」
8月 3日(金)	放送倫理を考える全社集会 講演「放送倫理の根源を考える」 講師 川端和治弁護士	12月 3日(月)	第21回コンプライアンス責任者会議
8月31日(金)	第20回コンプライアンス責任者会議	12月10日(月)	オンブズ東海第28回委員会
9月 4日(火)	第14回コンプライアンス委員会	2019年	
9月10日(月)	オンブズ東海第27回委員会	2月 15日(金)	第35回FNSアナウンス大賞中央審査会」 番組部門1位 福島智之アナ 「みんなのニュース one 弱いロボット」 新人部門 奨励賞 森夏美アナ 「ニュース one クリスマススペシャル中継」
9月20日(木)	平成30年日本民間放送連盟賞 テレビCM部門 最優秀賞 「竹島水族館／すいぞくかんのうた」 同 優秀賞 「名古屋市役所本庁舎／名古屋でぜひ ～映画予告編～」	スポーツ部門 敢闘賞 加藤晃アナ 「競馬 BEAT チャンピオンズカップ実況」	
9月20日(木)	地方の時代映像祭2018 選奨 「眠る村～名張毒ぶどう酒事件 57年目の真実～」	3月 1日(金)	第22回コンプライアンス責任者会議
9月27日(木)	2018 58th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS フィルム部門Aカテゴリー(テレビCM) ACCブロンズ 報道局公共キャンペーンスポット 「いま、テレビの現場から。」	3月11日(月)	オンブズ東海第29回委員会
10月10日(水)	東海テレビ制作一連のドキュメンタリ ー作品を映画化した「東海テレビドキ ュメンタリー劇場」 菊池寛賞	3月18日(月)	下期放送人研修会 講演「『憲法改正』テレビメディアの役割 国民投票における報道番組及びCMの 役割と規制」 講師 福井 康佐 桐蔭法科大学院教授
		3月26日(火)	第15回コンプライアンス委員会
		5月31日(金)	第23回コンプライアンス責任者会議 第56回ギャラクシー賞 優秀賞 オトナの土ドラ「結婚相手は抽選で」
		6月10日(月)	オンブズ東海第30回委員会

おわりに

「東海テレビ この1年の取り組み2019」を最後までご覧いただき、ありがとうございました。

「びーかん問題」から8年がたち、この間、私たちは放送倫理意識向上を目指し、各種取り組みを進めてきました。そして、放送やイベントなどを通じて地域文化の向上、さらに、岩手県をはじめ震災被災地の復興支援に努めてまいりました。しかし、これら取り組みはまだまだ道半ばです。

過去の過ちを忘れることなく、そして、地域の皆さまの信頼に応えられるよう、私たちは今後もたゆむことなく活動を続けてまいります。

< 編集・監修 >

東海テレビ放送コンプライアンス推進局コンプライアンス推進部

〒461-8501 愛知県名古屋市東区東桜一丁目14番27号

Tel. 052-951-2511 (代表) <http://tokai-tv.com>

発行年月 2019年8月

※文中の所属・肩書については原稿作成時点のものとなっています。

